

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	東京出版 『新編言語文化』				
副教材等	東京出版『新編言語文化 学習課題ノート』、第一学習社『ダブルマスター 古典文法+漢文句形』、 浜島書店『新訂版 最新国語便覧』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を、身につけた知識・技能を活用しながら、教師の指示以外でも自ら積極的に発展的な内容に取り組んでいる。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・行動の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	随筆	6 「B 読むこと【近代以降の文章】」	さくらさくら	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・「読むこと」において、内容の構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・教科書 16 ページ「言語活動」を行い、現代の言語文化に息づいている古典常識について理解する。	6	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
5	古文入門	1 「B 読むこと【古典】」	古典に親しむ	・現代とは仮名遣いが違うことを知る。 ・暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。	1	・授業の取り組み態度 ・振り返りシート ・単元テスト
6		9 「B 読むこと【古典】」	児のそら寝	・歴史的仮名遣いの読み方を学ぶ。 ・古文と現代文の違いについて理解し、品詞に気をつけながら辞書の使い方について学ぶ。 ・用言の活用の種類と活用形について理解する。 ・説話のおもしろさについて、内容・表現・歴史的背景などの点から理解する。 ・「地の文と会話文」「古文と現代語訳」をリズムや調子を体感しながら音読し合う。	9	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
7	随筆	5 「A 書くこと」	枕草子「うつくしきもの」	・歴史的仮名遣い、用言の活用の種類と活用形について理解する。 ・平安時代に生きた作者のものの見方や感じ方について、自分の考えを持つ。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題

	8	漢文入門	7 「B読むこと【古典】」	訓読の基本	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・漢文の訓読の決まりについて理解する。	7	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	10	故事成語	6 「B読むこと【古典】」	守株 借虎威	・漢文訓読のきまりについて理解する。 ・時代背景や諸子百家について学び、この話で語られている教訓の意義を理解する。 ・「故事成語」を調べ、短文を作り発表する。	6	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	11	小説	14 「B読むこと【近代以降の文章】」	羅生門	・語彙を豊かにする。 ・下人の行動や心理を元に場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・「元になった古典と読み比べよう」で、「今昔物語集」の文章と比較して、その違いをまとめる。 ・「下人のその後」を考えて書く。	14	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題
	11	詩歌	5 「A書くこと」	万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法や調べに留意しながら、作品に表れている物の見方考え方を捉え読み味わう。 ・「本歌取り」の技法を使って短歌を作り、表現されている点についてお互いに説明し合う。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト ・論述課題
	12	物語	5 「B読むこと【古典】」	「伊勢物語」芥川	・登場人物の行動や場面の展開を、平安時代の貴族の生活を考慮して、正確に把握する。 ・和歌を含む物語の読み取りを通して、人物の心情を読み取る。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	1	物語	5 「B読むこと【古典】」	「平家物語」木曾の最期	・軍記物語の文体の特徴や当時の武士の価値観や「名のり」「装束描写」などについて理解する。 ・古典の敬語表現について理解する。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	2	漢詩	5 「B読むこと【古典】」	絶句と律詩	・漢詩の決まり、表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品の歴史的背景、文化的背景を理解する。	5	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト
	3	論語	2 「B読むこと【古典】」	論語	・「論語」を学ぶことによって、自己のものの見方、考え方を豊かにする。 ・孔子の考え方について理解する。	2	・授業の取り組み態度 ・ワークシート ・振り返りシート ・単元テスト

計70時間（50分授業）

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 10 時間	B 「読むこと」【古典】 40 時間	B 「読むこと」【近代以降の文章】 20 時間
-----------------	-------------------	-----------------------	----------------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・单元ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

私たちの言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会にかかわるために、勉強をしながら自分との関わりの中での考え方に生かしていくことができるようがんばりましょう。

（担当：小竹裕子・桑原一行）